

## 秀吉に反逆、李王朝に尽くした武将

## 沙也可を語り日韓親善

豊橋ハートセンター講演会



中西氏と鈴木院長の熱心な対談

豊橋ハートセンターで

400余年前、韓国に帰化した李王朝のために尽くした日本人武将を紹介した日韓歴史講演会が26日、豊橋ハートセンターで開かれた。

講師の中西光夫氏(83)は、「前新城市教育長」は、「秀吉に反逆した日本武将・沙也可と友鹿洞40年の歴史」をテーマに、興味深く話を展開した。

中西氏は1970年代、司馬遼太郎著「街道をゆく」で沙也可(さやか)のことを知り早速、現地を訪問。子孫に会って話を聞いたり、その後多彩な交流活動に打ち込んでいる。

沙也可は、秀吉の朝鮮出兵の時、「この戦いに大義なし」と敢然と反逆。帰化して李王朝のために

尽力。後に功績が認められ金忠善の名を得て、友鹿洞(うろくとん)村を与えられた。子孫は今もその系譜を継ぎ「先祖は日本人」と誇り、清貧に生きている。

中西氏は、秀吉の侵略も詳しく述べ、「彼の生涯においても、日本の歴史においても朝鮮侵略は最大の汚点といわれている」と指摘。沙也可について、司馬氏は左衛門という名前だったのでないかと推測している。とも。

「これは物語ではないかと考える人もいるが、東大の若い学者の調査の結果、現地に残る古文書から事実と判明した」と述べた。また、自分が秀吉に反逆したことで、家族や親族に危害が及ぶことを心配し、出身地については一切明かさず謎多き偉人ともいわれている。望郷の念を詠んだ詩文もある」と説明。中西氏に付き添ってきた長女が、この詩文を韓国語で情感込め、涙ながらに朗読する場面もあった。

講演後、鈴木孝彦院長との対談も行われ、鈴木院長は「沙也可のような人が同胞であることに誇りを持った。今年は日韓国交回復40年でもあり、私たち一人ひとりが友好の気持ちで日韓親善を促進したい」と語った。

(星野のりこ)

世界の歴史の中で400年にもわたり、一族が一村に住み着いていることも驚異だ」と。一族は今も沙也可の教えを忠実に守り、立身出世を望まず清貧に甘んじ、儒教を学び農耕に励んで生活している。「沙也可も偉大な人物だが、子孫も偉大であり感動した」と結んだ。